

令和8年度 学校経営方針

I 教育目標と目指す学校像

学びを高める子ども
－子ども・保護者・地域・職員の笑顔が輝く学校－

II 年度重点目標

自分も友だちも大切にし、よりよい学校生活をつくりだす子どもの育成
～表現力(自分の言葉で伝え合う力)の高まりを目指して～

III 学校経営方針

1 子どもの笑顔が、保護者や地域の笑顔につながる

地域の教育資源、小規模校のよさを大切に、表現力(自分の言葉で伝え合う力)の高まりを基に、よりよい学校生活をつくり出す子どもの育成を図る。自分の言葉で思いを伝え合う力が、子ども同士のよい関係性、そして、当校の課題である「自己肯定感の向上」につながる。私たち教職員は、「形や結果」だけでなく、「過程」や「チャレンジ、努力する姿」を認めることを大切に、次の取組を行う。

(1) 子どもが主役の授業 ～基礎基本を身につけ、自分で考える子どもの育成～

ア 学力向上を図る取組～学力向上が第一！つきたい力を明確にした日々の授業～

(ア) 基礎基本定着の確認と徹底

- ねらい・学習課題・追求・まとめ・ふり返りを重視した学習過程
(教えることと考えさせることを明確にする。)
- UDLに基づく分かる授業(子どもと向き合う教材研究の充実)

(イ) 家庭学習の活性化

- 個に応じた家庭学習計画の支援(宿題と自主学習の取組)
- 保護者との連携・働きかけ

イ 主体的な学びをつくる取組

◎ 授業改善

- 子どもが主役の授業づくり
 - 仲間の考えを聴いたり、自分の考えを表現したりするための手立ての工夫
- 少人数のよさを生かした指導

(2) 人とつながる力の育成 ～相手の立場を考え、行動する子どもの育成～

ア 社会性を育む取組 ～異学年や他校との交流を「豊かな心育成のチャンス」に！～

(ア) 体験活動とリンクし、チャレンジする意欲の育成

- 豊かな体験活動の創出
 - 地域の人・もの・こととの関わり
 - 相手意識・目的意識を明確にした表現活動の充実
「チャレンジし、努力する姿や過程」を認める。

(イ) 自分や友だちのよさを認める取組

- 子ども同士のよい関係性による自己肯定感の向上と、ともに高め合う力の育成
 - 縦割り班活動、全校遊びの奨励
 - 行事後等に各学級、学年間でメッセージを送り合うなど、あたたかい言葉の交流の場の設定
- 場に応じた気持ちよいあいさつが響き合う学校(児童主体の活動による働きかけ)
「当たり前」を大事にしたい。「相手の目を見てあいさつ」「気持ちよい返事や言葉遣い」「一生懸命にそうじ」など、「当たり前」をがんばっている子を見逃さない。そのために、全職員で小さな変化を見つけ、認め、賞賛する。



(3) 望ましい生活習慣の育成 ～自分の健康を自分でつくるたくましい子～

ア リズムを整えた生活習慣を育む取組 ～子ども自身が自分の生活をつくる～

(ア) 生活習慣強調週間の設定

- メディアコントロールを軸とした指導の充実(家庭との連携)
- 睡眠時間の確保

イ 体力向上の取組

(イ) 体育授業の工夫

- 体育授業中の活動の工夫(異学年体育・全校体育の取組)
- モデルとなる動きやポイントの明示
- めあてや振り返りの重視

2 保護者・地域の笑顔が輝く学校づくり ―「共創郷育」―

「地域の力」なしに、子どもを育むことはできない。学校運営協議会、地域学校協働本部、PTA等、地域諸団体との協働によって、子どもが力を付けていく。この成長の姿が保護者や地域の喜びになる。そこで、「みんなの学校」として、学校と保護者・地域の信頼関係を築けるように次の取組を行う。

(1) 子どもにかける願いの共有

面談や学校運営協議会等を通して、「こんな子どもに育てほしい」という子どもにかける願いを学校と保護者・地域とで共有し、教育に取り組んでいく。

(2) 地域に貢献する教育活動

子どもが、地域を舞台に、地域の人と、地域のことを学ぶ教育活動に、地域に支えてもらうだけでなく、地域に貢献する活動を取り入れていく。このことにより、自己有用感や郷土愛を育てていく。

3 教職員の笑顔が輝く学校づくり… 子どもとともに、「よく学び、よく遊び、よく働こう」

教職員一人一人が自分の働く学校を創る。見附第二小学校でやりたいこと、身につけたい資質・能力をもち、個々のワーク・ライフ・バランスを整えながら、いきいきと勤務することが、子どもの笑顔につながる。そのため、次の取組を行う。

(1) 子どもを深く知る－児童理解力の向上

子ども一人一人をじっくり丁寧に見て、子どもを深く知るように心がける。決して個人の目だけで判断するのではなく、組織で子どもを見て対応する努力をする。

(2) 授業力の向上(研修の日常化)

子ども目線で教材研究、授業準備をして授業に臨む。本時の学習内容とねらい、学習課題(今日は何をするのか)を明確にもって教室へ向かう。進んで研鑽をし、学び合う教職員でありたい。

(3) 同僚との対話－学び合い&チーム協働

教務室での同僚との対話を大切にする。子どもや教育活動について、語り合い、考え方の違いを受け止め、学び合う。抱え込まず、互いに弱音を出し合える雰囲気づくりに努める。

(4) 働き方改革の推進－ワーク・ライフ・バランスの意識とタイムマネジメント力の向上

「よく学び、よく遊び、よく働こう」…明るく元気で、人間味ある教職員の姿は、子どもの活力を増幅させる。仕事と生活の調和を図り、私生活を楽しむことは生きがい・喜びを増し、人間力を向上することが、豊かな教職生活をつくることにつながる。教職員一人一人が自身のタイムマネジメント力を高め、子どもと向き合い、職員同士が風通しよく、はつらつと働くことで、子どもも教職員もいきいきと学ぶ学校をつくる。